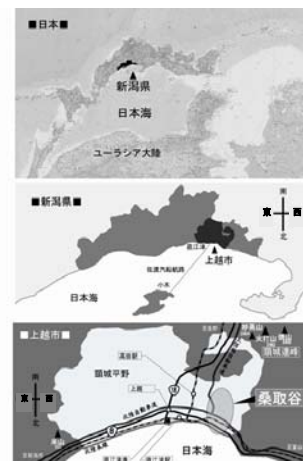
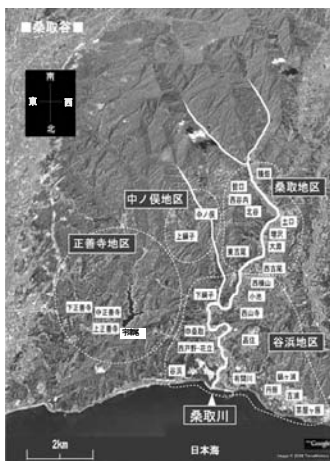


モデル事業名	かみえちご桑取谷 100の手仕事創出事業
活動団体名	NPO法人かみえちご山里ファン倶楽部
ホームページ	http://homepage3.nifty.com/kamiechigo/
所属/担当者名	事務局/三浦絵里
連絡先	TEL/FAX : 025-541-2602 E-mail : kamiechigo@nifty.com
活動地域	新潟県上越市西部中山間地域

● 活動地域の概要

- ・桑取川水系を中心とした里山・里海で、水源の森から海までが17kmという短い谷の特徴により、多様な環境、景観と独自の水循環系を持つ。
- ・市街地から10km~30kmの距離にありながら、昔ながらの生活、文化が色濃く守り伝えられ、祭や年中行事なども多い。かつてこの土地で、渋沢敬三氏が調査に訪れその後濱谷浩氏が小正月行事を取材し、名作「雪国」が生まれた。
- ・1世帯あたりの人数は2~3名。特に地理的に孤立した集落、ならびに谷のつきあたりに位置する集落は高齢化率が高く、また1世帯あたりの人口も少ない。
- ・地域内の交通機関の現状は、桑取、谷浜、正善寺地区の路線バスで、これは通学、通勤の時間帯に限られている。公共交通機関が全くない集落もあり、車を持たない一人暮らしの高齢者は、市の運営する福祉バスを利用する他は、市街地に出るために、ハイヤーを頼まなければならない。
- ・昭和30年代より、過疎高齢化が進み、田畑や森林が荒廃し始める。過去2~3年においては、空き家の増加と田畑の荒廃により、古民家や民具など貴重な文化財の業者買占めによる県外流出や、土砂崩れの被害などが顕著に現れ、景観にも大きな影響を与えている。



土砂災害と谷への不法投棄（中ノ俣集落）

	合計	男	女	世帯数
28集落合計	1771	881	890	591

080331 現在 上越市人口センサスより抜粋

- ・地域内の産業は、兼業農業が中心。退職前の若い世代のほとんどは、市街地に働きに出ている。また高齢化が進む集落では、自給的農業に留まり産業や雇用には及ばない。地域内には第三セクターの温泉施設、「くわどり湯ったり村」がある。

● 活動地域の課題

地域の課題のなかで最も深刻なのは、住民の受け継いできた知恵や技術、集落自治の衰退など、自然の荒廃のみならず、それを保全管理しながら活用するために培われてきた生活技能や、コミュニティを維持する知恵の詰まった文化そのものが消失の危機にあるということである。平成13年、NPO法人木と遊ぶ研究所が調査し、まとめた「伝統生活技術レッドデータ(表1)」により、この地域の伝統生活技術があと何年で消滅する危機にあるかが示され、その保全や記録の重要性が明らかになった。かみえちご山里ファン倶楽部では、設立以降地域資源調査や地域活動の支援、伝統技術の記録、復活、地域資源を活かした自主事業や産業開発、受託事業などに取り組んでいる。今後は、地域資源の発掘から始まったNPOの活動を基盤として、それを地域のあり方や維持、その手法についてどのように利用していくかが問われており、特に雇用や産業の創出は急務である。

表1 伝統生活技術レッドデータ(平成13年 木と遊ぶ研究所調査)

技術種別	技術種別	技術種別	技術種別	技術種別	技術種別	技術種別	技術種別	技術種別	技術種別	技術種別	技術種別	技術種別	技術種別	技術種別	技術種別	技術種別	技術種別	技術種別	
A	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
B	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38
C	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57
D	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76
E	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95
F	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114

● 活動の内容(全体)

活動① : 桑取谷のごちそう発掘

内容 : 地域内で生産される農作物、天然採取物、調理や保存術などの調査、ならびに商品開発

目的 : 食に関する知恵や文化の保全と共に、その購買を通して首都圏に住む人々との交流や、「第二のふるさと」「生存のための保険機能」としての新たな産業の核としていく。また、高齢者が主体となり得る「手仕事」を創出し、生きがいや副収入を創出できる体制を作る。

活動② : 桑取谷の手技発掘

内容 : 木工、わら細工、植物などの加工技術の調査、ならびに商品開発

目的 : 木工品や自然素材を使った商品の開発を通し、間伐の推進や森林整備を促進し、森林の荒廃を防ぐ。また高齢者が主体となり得る「手仕事」を創出し、生きがいや副収入を創出できる体制を作る。

活動③ : 桑取谷「ことごと村づくり学校」実施

内容 : 古民家改修技術伝承事業ならびにコミュニティ拠点・都市交流施設化

目的：古民家改修イベントを通して、古民家改修の技術伝承を図ると同時に、上記商品を販売したり交流施設として整備することにより、地域のファン作り、伝承の仕組み作り、購買者の獲得などを旨とする。

(直近1年間の進捗など)

平成22年度は、21年度に実施してきた試験的実施や試作、調査をベースに更なる商品開発を進めるとともに、県の補助事業等を受けながらレストランや交流施設としての古民家の整備、加工品施設の整備など、将来的な販売や事業実施に当たっての施設整備などにも力を入れている。

● 活動の成果・全体

活動①：桑取谷のごちそう発掘

①地域の食材で市場には出回りにくいものや、この土地に特徴的な美味しさを持つ作物の調査、加工品の試作。

②「その土地で採れるものをその場で食べる」＝「地産即食」をコンセプトに打ち出し、食材のより美味しくかつ安全な提供という、「食」に対する新たな価値を提案。

県内の市街地、ならびに首都圏のモニターからは、大量生産品とは違う「文化を伴う地域性」や「味」に対する評価はもちろん、「スーパーやレストランでは手に入らない」「ここでしか体験できない」という観点からも評価が得られた。今後、商品とともに「地域に足を運んでもらえるしかけ」や「交流の場作り」への効果が期待される。

ヒアリングや試作を通して地域内では、「こんなものが喜んでもらえるのか」「そんなやり方もあるのか」というような声が多く聞かれた。食費側から立った視点、世代の違う視点などを加えることにより、これまで「あたりまえ」だった農作物や加工品に、新たな価値が加わるようになる。



活動②：桑取谷の手技発掘

①講習会などを通しての、伝統技術の調査・記録・発掘

②地域の資源と技術のコーディネートによる、付加価値商品の開発

講習会は今後手仕事産業を開発していくための地域内の人材発掘の機会として、大変有意義である。参加した地元住民からは、「貴重な機会だった」「また声を掛けてほしい」という反応があった。

木工開発においては、杉間伐材やケヤキ材を使い、上越市から「上越マイスター」として認定されている職人に作成を依頼し、地場材と高い技術を組み合わせによる高付加価値の商品開発を目指している。かつて生活用品として臼・杵・ソリ・道具などの製作のために保存され、屋根裏や倉庫に眠っている銘木、土木工事の支障木として伐採、放置される雑木の太径木、採算が合わず放置される杉間伐材などの有効利用として、高い効果が期待される。商品へのヒアリングではデザインへの好感、針葉樹の器の新鮮さに対する反応なども得られた。また「地域材で地域の職人が作ったものがあるとは素晴らしい」という声もあり、注目度の高さやニーズも上がるがえる。



活動③：桑取谷「ことこと村づくり学校」実施

年に9回実施。地元職人を講師に迎え、古民家改修の技術とともに、地域の文化背景も学んでもらえるカリキュラムを工夫している。大工道具の使い方や手入れ方法から始め、ホゾ切りやクギ打ちなど、基本作業を行いながら指導を行っていくため、初心者や女性参加者も積極的に参加している。上越市内、新潟県内、首都圏等幅広い地域からの参加があり、地元とのかかわりやその後の囲炉裏を囲んでの交流会を通して、この地域の生活の知恵や郷土料理など、古民家だけでなく文化的背景にも大変興味を持ち、桑取谷に通うのが楽しみという声が多い。また、地元講師からは、消滅の危機にある技術の伝承や、都市住民との交流などに期待が寄せられ、それにより効果的な協力をいただいている。



・直近1年間の成果など

本年度の成果として最も大きいのは、地産品加工施設の整備が完了し、今後味噌や漬物等の加工が可能になると同時に、地域住民が利用できる施設となることである。これは長年地域から希望が寄せられていたことであり、この利用を通して更なる商品開発と実施体制を整えていくことが可能になる。昨年度試作、開発した「おすそ分け」「サラダランチ体験」は、本年度から実際の運営を始めている。生産量が限られているため、限定的な販売となるのが高付加価値化に繋がり、利用者には野菜新鮮さやロケーションの希少さにも好評をいただいている。また、「ことこと村づくり学校」での技術伝承実施と同時に、古民家レストラン・交流施設の施設整備も進んでおり、地域からは「こんな立派な施設ができるなら店番をしたい」「自分の打ったソバを提供する場所がほしい」等の声も出ている。木工製品の資源となる古民家解体時に出る材や支障木伐採に伴う材については、地域から情報が集まるようになり、ストックが増えていると同時に、新たな製品の開発やパッケージングなどについても専門家の助言を得ながら販売も進めている。

以上の成果は、この事業の目的である「100種類の手仕事の商品開発」「過疎集落にある古民家の販売施設、文化交流施設としての整備」「販売や雇用の創出、地域の高齢者のための収入源になる仕組みづくり」の達成に大きく貢献している。

● 今後の課題及び展望

・課題：各事業の商品開発に関して、販売を一般に行っていく場合の許認可の調査と取得、具体的な企画に応じた人材の確保、運営体制の整備が必要がある。古民家改修については、イベントとして改修ができる箇所には限りがあるため、改修が必要な他の物件の確保も必要になる。

・展望：継続的に食品加工物や工芸など、100種類の手仕事の商品開発を目指し、このうちから体制の整うものから順次、整備した施設の運営とともに販売や雇用の創出、地域の高齢者のための収入源になる仕組みとして立ち上げていくと同時に、販売・交流施設として地域のファン作り、伝承の仕組み作り、購買者の獲得を行っていく。